

1. 調査報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1070101041
法人名	医療法人 群栄会
事業所名	グループホームみずきの家
所在地 (電話番号)	群馬県前橋市池端町384-1 (電話) 027-253-5630
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	平成20年5月22日

【情報提供票より】(20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12年 7月 1日
ユニット数	2 ユニット
職員数(みずきの家)	7 人
職員数(みずきの家2)	7 人
利用定員数計	18 人
常勤7人, 非常勤 人, 常勤換算5.3人	
常勤7人, 非常勤 人, 常勤換算5人	

(2) 建物概要

建物形態	併設/単独	新築/改築
建物構造	鉄筋 造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,500 円	

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	3 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 82 歳	最低	60 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 群栄会 田中病院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

経営母体の一つとして病院に隣接されている施設でもある。利用者・家族、職員にとっても緊急時に対応してもらえる安心感がある。環境にも恵まれていて施設が畑を持っているため利用者に役割を与えている。職員は利用者の経験を大切にしている。施設で蚕を買っている。養蚕の盛んであった群馬では蚕を飼う事は多くの利用者にとって仕事でもあった。利用者は養蚕を通して過去の仕事を体験している。絹のうちわ作りも行っている。地域との交流もあり、自治会に加入している。情報の交換も運営推進会議等で行われている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点なし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員と話し合い、管理者が記入した。管理者は評価の意義を理解していて職員にもそのことを伝えている。評価が職員のレベルアップにつながることも理解しており話し合いを持っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は2ヶ月に1度開催されている。施設のほうから行事案内や利用者の近況、外部評価の報告などが行われている。運営推進会議で提案された行事(クリスマス)に会議のメンバーも参加したいという意見が実行され、推進会議が地域とのつながりをより密にしている。また推進会議に参加した自治会長が消防士だった事もあり避難の方法、訓練などを教えてもらった。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	管理者、職員は家族の意見を大切にしようとしている。運営推進会議でも意見を出しやすいような雰囲気作りを心がけている。また面会に来た時には積極的に家族から意見など聞くようにしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入している。地域の敬老会や夏祭りなどに参加して地域の人達と利用者との交流が行われている。また資源の回収に協力している。古紙の回収には利用者と職員が持っていくジュースなどをいただく事もある。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	施設独自の理念があり職員一同その理念を共有している。理念は施設の見やすい場所に掲示されている。地域の交流は出来ているが理念の中に地域との係わりあいがない。	○	理念は管理者と職員が話し合い作り上げたが、地域密着型サービスとして、地域との関係を取り入れた理念を今一度作り上げて欲しい。
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員はミーティングや申し送り、また折に触れて理念を確認し振り返っている。新入職員に対しては入職時に理念を話している。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入している。地域の行事などには積極的に参加している。敬老会、夏祭り、会合などにも参加している。また利用者と共に資源の回収に協力している。ジュースなど地域の方からいただいたりしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の結果を踏まえて今回自己評価も職員と話し合って管理者が記入している。運営推進会議にも議題として取り上げ、改善点を話し合ってもらった。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催をしている。メンバーは市職員、自治会長、民生児童委員、利用者家族などで行われている。会議で施設の行事を推進会議のメンバーも一緒に行いたいと要望が出て推進会議のメンバーも含めての行事(クリスマス)が実現しサービスの向上となっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	定期的な集まりがある。市のほうからも連絡があり電話での連絡、情報交換など行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に身体状況の報告など行っている。また2ヶ月に一度ホーム便りを作成し家族に郵送している。利用料の支払いに見えた時にも健康状態など報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会の時など家族が意見を積極的に言える雰囲気を作っている。運営推進会議でも家族が意見を出し易いよう努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は職員の異動を最小限にしたいと心がけている。新しい職員は経験者から指導を受けながら利用者との関係を築けるように勤務を組んでいる。また夜勤は昼の仕事に慣れてから、先輩と何回か一緒に仕事をし、利用者に対しての影響を最小限に抑えている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会の研修には順次参加をしている。管理者は研修が職員の質を向上させることを認識していて、積極的に研修に参加をさせている。また法人内研修にも参加している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	前橋ブロックで行うグループホームの勉強会やグループホーム連絡協議会で行う研修などに参加して交流を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人と家族に施設を見学してもらい、納得をしてから入所してもらっている。その時に施設の説明を行い不安を取り除き入所に結びつけている。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者に対して支持的にならないよう、子ども扱いをしないように管理者・職員とも気を配っている。また利用者から教えてもらうということを忘れないよう、人生の先輩として感謝の気持ちを大切に介護を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話の中からその人の意向を把握している。またしぐさや態度などからも思いを察する努力をしている。言葉が伝えられない人に対しては表情やしぐさなどから思いを汲み取れるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族から意見を聞きそれを基にして管理者、職員、ケアマネジャーで話し合い、介護計画を作成している。利用者の意向を汲み取る努力を行っている。家族からも情報を集め介護計画に反映をさせている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとの見直しを行っている。常態の変化があるときは随時計画の見直しを行っている。	○	毎月のモニタリングにより、より状態の変化が分り見直しができるので毎月のモニタリングを行うことを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院への受診、また通院介助などを行っている。連携病院以外の受診にも対応している。そのほか買い物、美容院、見舞いの支援などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の要望などを聞き、かかりつけ医とも話し合い希望に添えるよう支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人・家族とも話し合いを行い意向を聞いている。本人・家族の希望を取り入れ、医師や看護師とも話し合い内諾書を作成している。重度化に沿って職員とも方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者と職員はプライバシーの重要性を理解し利用者に対して配慮を行っている。ミーティングの時なども話し合っている。排泄誘導時の声掛け、方言などにも気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にした介護がされている。食事の時間も個人のペースに合わせて調節されている。朝の時間もゆっくりな人には遅めに声掛けをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は食事を一緒にとっている。ある利用者には食事の準備から係わってもらうよう職員は気を配っている。野菜など職員と一緒に畑から採ってきている。利用者参加で食事の楽しみが得られるよう職員は努力している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3～4日午前・午後の入浴と一応の決まりはあるが、利用者には好きな時に入浴出来る体制がある。気の合う友人との入浴も出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	施設で蚕の飼育を行っている。利用者も役割を持ち参加している。そのほか掃除、洗濯干し、衣類をたたむ、野菜づくり、などの役割がある。また楽しみとして編み物、手芸、絵画、などがある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や外気浴、買い物など日常的に外出支援がされている。またドライブ、花見、初詣、りんご狩り、果物狩り、昼食会、外食会など盛りだくさんなメニューが用意されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者は鍵をかけることが利用者にとって精神的な圧迫感を与えることと理解している。また実際に鍵をかけないことが利用者に安心を与えるという事を経験し鍵はかけていない。落ち着かない人には一緒に散歩したりして気分転換を図っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回火災訓練を行っている。日中の訓練だけでなく夜間を想定した避難訓練を行っている。運営推進会議では自治会長に協力を依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	病院栄養士による献立を参考にしている。食事量、水分量が分りやすく1枚の記録用紙に記入されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには生花が飾られている。テーブル、椅子、テレビなどがあり窓からは外の畑が眺められる。台所がホールに面しており、料理の香りが楽しめる。また畳のスペースには掘りごたつがあり、家庭的な雰囲気と安心感がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には机、箆笥、棚、など使い慣れたものが持ち込まれている。花が活けてあったり、寝具、椅子などに個性が出ている。手芸用品などが持ち込まれている。写真、絵画、書道なども飾られている。その人の個性が感じられる。		